

第四回 谷口裕和の会

平成二十七年九月二十七日(日)
渋谷セルリアンタワー能楽堂



長唄「松廼寿三番叟」 谷口裕和



長唄「賤機帯」
班女 谷口裕和／舟長 片岡千之助（特別出演）



清元「三社祭」
善玉 谷口裕和／悪玉 尾上右近（特別出演）

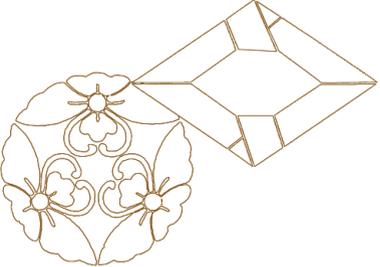
写真／木越 由美子

役員

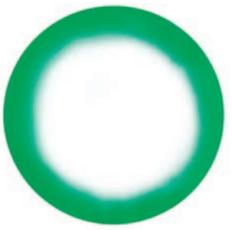
善風会会長 田中勝彦
善風会副会長 新井裕輔
善風会理事 田口靖剛
善風会名誉顧問 鶴巣久枝

スタッフ

狂言方 森下勝史
音響 岡野邦敏
後見 萩野聡
照明 (有) スカイ
大道具 藤波小道具
小道具 音羽舞台
扇子 十松屋福井
荒井文扇堂
衣裳 宮脇文扇堂
着付 日本演劇衣裳
写真 内藤千早
撮影 (有) うえき企画
印刷 飛騨印刷
題字 川邊りえこ
製作 善風会



日本舞踊



第十一回

善風会

温習会

平成二十八年九月十一日(日)

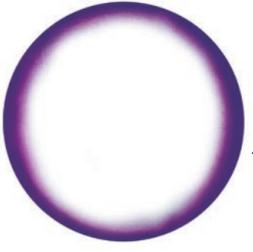
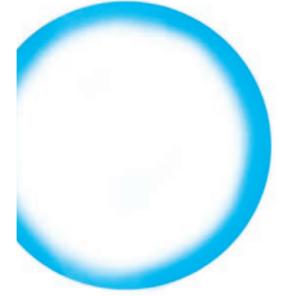
午前十一時半開場／十二時開演

高山市民文化会館

小ホール

谷口裕和事務所
〒506-0027 岐阜県高山市神明町3-81-1
TEL&FAX 0577 (34) 2035
〒143-0026 東京都大田区西馬込1-1-4-710
TEL&FAX 03 (3774) 0059
<http://www.fumibishi.jp/>

ご招待



ご挨拶

会主 谷口裕和

皆様には、御機嫌麗しくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、此の度、第十一回「善風会 温習会」を開催させて頂いたこととなりました。温習会とは、習った成果を発表する会でございます。一昨年第十回の記念舞踊会を盛大に大ホールで開催させて頂いた後、一同大変に良い勉強をさせて頂きました。今回はその後の一年半の成果を素踊りにて御覧頂ければと存じます。尚、大道具（舞台背景）は、本格的に飾らせていただきますので、御覧くださいる皆様にも楽しんで頂ける趣向でございます。

何卒門弟も、お稽古を何年も続けた方から、年数の浅い方までと、それぞれに課題を持ち一生懸命勉強させて頂いていただきますので、どうぞ御教示をお願いいたします。

最後に、善風会開催にあたり、お力添えをいただきました皆様にご挨拶申し上げます。

何卒、最後まで御高覧賜り、末長く「善風会」を御支援賜り、ご指導ご鞭撻下さいます様重ねてお願い申し上げます。



一、長 唄 四季の高山

丸山 成子
南 房枝
伊関佳菜枝

漁南楼作詞・花柳寿次郎作曲、昭和十二年開曲。飛騨高山の美しい自然・街並み、春秋の祭りと、四季折々の風情を織り込んだ作品です。長唄の調べに乗せた高山絵巻をご覧ください。

二、長 唄 藤 娘

藤の精 川上 貴子

塗笠に藤の枝を担いだ娘の姿がお馴染みの歌舞伎舞踊の代表曲です。大津絵の変化舞踊を、踊りの名人と言われた六代目尾上菊五郎が完成させた現在の演出では、琵琶湖周辺の名勝地・近江八景を詠み込んだ「くどき」、そして華やかな踊り地と変化に富んだ見どころの多い作品です。

三、東明流 春 の 鳥

高橋 佳奈

東明流とは、明治時代野球と鉄道を日本に広めた平岡吟舟が創始したもので、上品で落ち着いた感覚を特徴とする曲調です。作詞は、三井系実業家で茶道家で高名な高橋箒庵で昭和初期の作品です。春の鳥とは、鶯のことと鶯の精が、娘姿で愛らしく微笑ましく踊ります。曲も美しくできており、東明流では、人気曲の一つです。

四、松襲江戸面影

稲垣 友絵

お座敷で踊られる、小唄・端唄・長唄を御祝儀曲、夏・秋のこの季節になぞらえ一幕にまとめました。お座敷ならではの楽しい気分をお楽しみください。

一、岸 の 柳

森下美智子

女の命ともいわれる緑の黒髪。万葉の和歌の時代から、せつない想いを黒髪に託した作品は数々と作られてきました。雪の降る夜、髪をすく手を止め、積もる想いもやがて雪のように消えゆくかと、世の無常を嘆きます。座敷舞の風情でご覧に入れます。

一、深川しぐれ

栗原志穂子

龍宮から戻った浦島が、風に舞う蝶に乙姫を憶いつつ、玉手箱を開けると、白髪の老人となるという、ご存知の「浦島太郎」のお伽噺を題材とした歌舞伎舞踊です。美しい旋律にのせ蝶との踊り、二枚扇の振りなど浦島の乙姫への心を描くロマンチックな作品となっています。

一、河 太 郎

宿名 辰弥

お座敷で踊られる、小唄・端唄・長唄を御祝儀曲、夏・秋のこの季節になぞらえ一幕にまとめました。お座敷ならではの楽しい気分をお楽しみください。

一、松襲江戸面影

稲垣 友絵

龍宮から戻った浦島が、風に舞う蝶に乙姫を憶いつつ、玉手箱を開けると、白髪の老人となるという、ご存知の「浦島太郎」のお伽噺を題材とした歌舞伎舞踊です。美しい旋律にのせ蝶との踊り、二枚扇の振りなど浦島の乙姫への心を描くロマンチックな作品となっています。

一、義太夫 万 歳

古澤 順子
外笈ゆり子
圓田真由美

文楽「花 競 四季 寿」の四変化の春にあたる曲です。正月に門々を回って春を寿ぐ万歳の風俗を、三人立ちで華やかに舞う元禄の風情でご覧に入れます。

一、長 唄 惜しむ春

川島 雛乃

若い娘が、花の散る野辺を背景に逝く春を惜しむという、もの憂いような哀愁が漂ってくる詩情の美しい曲です。どこか新しさを感じる曲調が見所です。

一、清 元 扇 獅子

古橋ひと実

日本橋の芸者が、四季になぞらえ、正月の三味線の弾き初めから、寒牡丹に戯れる扇獅子のくだりまで、日本橋、魚河岸、上野、隅田川を詠みこんだ、粋な清元の作品です。

一、長 唄 八島官女

熊田 勝一

平家一門が壇の浦で滅びた後、今は海女に身をやつた官女が過ぎし昔の栄華を懐しむ風情を描写した舞踊です。後半は、長刀を持った官女が武者となって、悪しき幻を追いつながら見えぬ敵と立ち廻りとなり、幕となります。

一、義太夫 団 子 売

杵 造 結城 知子
お 白 金丸あずさ

団子売りの夫婦が屋台に備えた白と杵を持ち出し団子をつき、おかめ・ひよつとこの面をつけ夫婦円満のほほえましい姿を描いた風俗舞踊です。

一、大和楽 雪 折 竹

清水 清美

雪の降り積む竹林を舞台に、恋に悩む女心を唄った大和楽の人気曲です。格調のある曲に静寂さが加わり、笹川臨風の作詞で「昭和の地唄」と評判になったほどの名作です。

一、長 唄 猿 舞

此下兵吉 木村栄奈絵

此下兵吉とは、木下藤吉郎(後の太閤秀吉)のことで、顔が猿に似ていたことから、その名がつけられました。出の武張った振りから、色奴の柔らかな気分を出し、港の遊女との別れの風情、大名行列での槍を振った豪快な荒事の振りと同様な風俗が読み込まれています。

一、大和楽 狐

金村 海
下垣内花音
村本亜夜奈

狐の嫁入りを題材にユーモラスあふれる楽しい曲です。手の形、足の使い方など狐の動きが振りに取り入れられ、子供らしいかわいい踊りです。

一、清 元 三 社 祭

善 玉 丸山 成子
悪 玉 砂田 良子

浅草観音の縁起をもとに、漁師二人が網を打つ様子などを見せた後、流行歌の軽快な手踊り、ドロドロの大鼓が入り善玉、悪玉が乗り移り踊り出します。悪くし、新内がかりのクドキ、最後に玉尽くしを軽妙に踊ります。歌舞伎舞踊の名作です。

一、長 唄 恋 の 手 習

西野 紘子

歌舞伎舞踊の大曲『京鹿子娘道成寺』のくどきの部分を踊ります。恋する女性の嬉しさと悩みをくつたくなく表しています。手拭いを口にくわえたり、鏡に見たてて紅をさしたり、女心を表したり…と、手拭いが重要な役割をするのも特徴の舞踊です。また舞台には出ませんが、相手の男性がいるつもりで、様々な仕草を表現します。

一、大和楽 お 祭

南 房枝

江戸三大まつりの一つ、山王祭の賑わいを描写したもので、境内の雑沓と遠く神輿大鼓・屋台囃子・見世物小屋からのお囃子などあふれる音の中でお祭の気分が高まり、やがて十五夜の月が出て御神燈に灯がともると、雰囲気は最高潮に達します。掛け合いも楽しく、めりはりの利いた素晴らしい作品です。

一、義太夫 海 女

伊関佳菜枝

文楽「花 競 四季 寿」の四変化の夏にあたる曲です。月夜の浜で汐波む海女の、浪に戯れ水の中を自由に泳ぐ姿や、男の冷たい心を恨みながら、恋に悩んでいる娘心、華やかな踊り地と、義太夫の大樟の調子にのせて、変化に富んだ作品です。

一、長 唄 助 六

会主 谷口 裕和

歌舞伎十八番の『助六』のエッセンス的な内容の演目で、助六の登場の一端を取り入れて、江戸で一番の遊郭吉原で、夜桜を愛で、気っ風のよさのあるすつきりとした男伊達の踊りです。基本的に荒事らしさ・勇ましさをもちますが、やわらか味を少々滲ませ男の色気がこの踊りの特徴です。

一、高山さわぎ

会主 谷口 裕和

会の最後を締めくくるのは、東京新橋を代表する芸者・七重さんを迎え、男女の色模様を描いた『降りてゆく』を、また恒例の『高山さわぎ』で舞い納めます。

一、高山さわぎ

会主 谷口 裕和

八重の山道はるはる越えて 山の都の高山へ
高山名物数々あれど 春慶 洪草 小糸焼
目出度目出度の若松様よ 花の洲さきに舞い遊ぶ

一、降りてゆく

新橋 七 重

八重の山道はるはる越えて 山の都の高山へ
高山名物数々あれど 春慶 洪草 小糸焼
目出度目出度の若松様よ 花の洲さきに舞い遊ぶ

一、高山さわぎ

出演者全員

会の最後を締めくくるのは、東京新橋を代表する芸者・七重さんを迎え、男女の色模様を描いた『降りてゆく』を、また恒例の『高山さわぎ』で舞い納めます。

一、高山さわぎ

出演者全員

八重の山道はるはる越えて 山の都の高山へ
高山名物数々あれど 春慶 洪草 小糸焼
目出度目出度の若松様よ 花の洲さきに舞い遊ぶ